



慶應義塾志木高等学校

2021 学校案内

KEIO SHIKI SENIOR HIGH SCHOOL **SCHOOL GUIDE**

『慶應義塾の目的』 福澤諭吉



〔原文〕

慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず 其目的は 我日本国中に於ける気品の泉源・智徳の模範たらんことを期し 之を實際にしては 居家・処世・立国の本旨を明にして 之を口に言ふのみにあらず 躬行実践 以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり

以上は曾て人に語りし所の一節なり

慶應義塾は、どこにでもあるような学校の一つとなることで満足するところではありません。慶應義塾は、義塾で学ぶ塾生や塾員が、日本における「気品の泉源」・「智徳の模範」となることを目指す学塾です。それを具体的に言うならば、塾生・塾員が、家庭を安定させ、世の中で暮らしを立て、さらには国の独立を保つことの本来の意味を明確にしたうえで、それをただ口にするだけでなく、自ら行動に移すことで、「全社会の先導者」となってくれることを願っているのです。



校長 高橋美樹

慶應義塾志木高等学校は、1948年、戦後の極端な食糧不足の中、農業高等学校として設立されました。その背景に、慶應義塾伝統の、物心両面での独立、つまり他に頼らず自ら道を開く精神と、実学、すなわち応用科学という考え方があったことは想像に難くありません。

高い専門性を有する教員による体験型・参加型授業、自由闊達な学校の雰囲気、自然に囲まれた広大なキャンパスでの少人数教育やサークル活動——これらはすべて、独立自尊の精神や実学の基礎、ひいてはリーダーに必要な素養を身につけることに結びつきます。

実際、慶應義塾志木高等学校は、これまで、数多くの有為な人材を輩出してきました。今度は「あなた」が志木高で学び、飛躍する番です。来年4月、皆さんの笑顔に会えることを楽しみにしています。

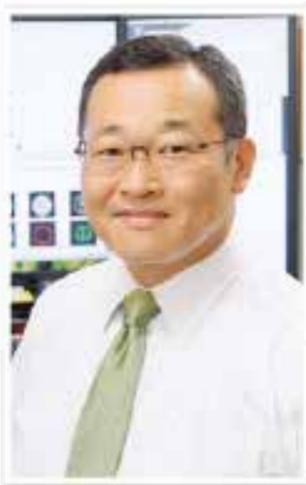
Contents

- 02 慶應義塾の目的
- 04 志木高で学ぶということ
- 06 これから志木高生になる君たちへ
- 08 教育環境
- 09 教科紹介
- 14 施設案内
- 16 志木高の四季
- 18 学校生活
- 20 年間行事
- 22 クラブ活動
- 24 志木高の歩み
- 26 進路状況
- 27 アクセスマップ



志木高で学ぶということ

さまざまな分野で活躍する先輩からのメッセージ



岡田英史君
(32期) 1982年卒

人生の原点となる学校

志木高は、自由で、生徒を大人扱いして、背伸びすることを許してくれる学校という印象が強く残っています。このような環境の中、受験という画一的で分かりやすい目標がなくなったこともあり、自分がやりたいことは何か？ 自分に向いていることは何か？ ということを自然と考えるようになりました。

志木高では、そのような生徒達の知的好奇心を刺激して学問へとさまざまな授業が数多く行われていました。例えば、古文では万葉仮名で万葉集を読む授業がありましたし、選択化学の授業で半年かけて行った定性分析の実験は、理工学部 1 年の化学実験よりも高度な内容を含むものでした。

私自身について振り返ると、当時は、勉強よりも端艇（ボート）部が中心の生活を送っていました。クラブ活動を通じて、人生の師とも言える部長先生、東京オリンピックに出場した方々を始めとする多くの先輩、そして後輩と出会えたことは、何事にも代え難い財産になっています。また、自分自身はたいした成績は残せませんでした。大学進学後にコーチとして後輩のインターハイ優勝に立ち会えたことは貴重な体験になりました。

私は義塾の理工学部電子工学科で、光や画像による生体計測、とくに赤外線を用いて脳の活動部位をイメージングする研究に携わっています。父親がエンジニアで、幼いころから機械図面に囲まれて育ったこともあり、漠然と将来は理工系に進むものと思ってはいましたが、志木高で様々な経験をしつつ自分の将来を考えた時間がなければ、研究者を志すという選択は出てこなかったに違いありません。

教育の本当の効果は 20 年後に現れると言われていています。志木高で学んだことや経験したことは、年を経る毎にその重要性に改めて気づくことが多く、現在の自分の原点は志木高にあると言っても過言ではありません。私が志木高で学んだのは 30 年以上も前のことですが、志木高から理工学部に進学してきた学生諸君と接していると、志木高の良き精神が脈々と受け継がれているのを感じます。これから志木高に入学される皆さんも、自由な環境で青春を謳歌しつつ、有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。



天野 徳雄君
(36期) 1986年卒

「自由」の意味を見つけ出そう！

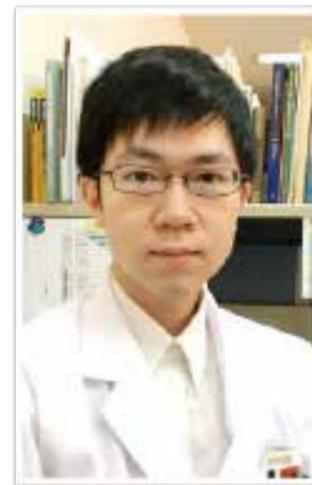
私は、昭和 10 年創業の日本蕎麦屋を営んでおります。高校を卒業して 30 年以上になりますが、ありがたいことに、志木高同期、先輩、後輩、更には慶應繋がりのお客様が毎日のように来店して下さいます。近年の SNS 等の普及により、横の繋がり、縦の繋がりを以前よりも強く感じる日々が続いています。

私のような自営業のみならず、社会に出た時に、三田会と称される塾員（慶應大卒業生）の繋がりや大切さや有難さは数多くの塾員が感じていることと思います。特に、志木高の先輩、後輩と分かった時は殊の外です！ その三田会の一つである志木高卒業生同窓会「慶應志木会」は、1950 年卒業の第 1 期の方から約 15,000 名の会員が「慶應志木会賞」「慶應志木会奨学基金」「国際交流支援金」等により、志木高生をバックアップしています。

志木高を一言で表現するなら「自由」な学校です。皆さんが志木高に入学した時には、青春時代の 3 年間を自分で学習したい分野、やりたいスポーツ、極めたい趣味などにことごとく時間を費やすことができる「自由」があるのです。ただ、それは、慶應義塾の塾生（生徒）として、自己責任において行動する上での「自由」でなければならないと学びました。

私が高校 3 年生の時、収穫祭（文化祭）のクラス催しとして、ディスコをやることに決めました。本物のミラーボールを回転させて本格的な雰囲気を出そうという結論になりましたが、さて、どこにあるのやら？ インターネットが普及していなかった当時ですが、クラス全員で調べ、探しました。ようやく貸出業者を見つけ出し、担任の先生に相談することに。先生は、我々の熱い想いを理解してくださり、事務室の許可を得て学校の車を自ら運転して、ミラーボールと一緒に取りに行ってくださったのでした。自分で考え行動する「自由」への理解と協力は、今でも鮮明に覚えています。

受験生の皆さん、慶應義塾志木高等学校に入学するためだけではなく、入学した後の 7 年間の学生生活でやりたい事をモチベーションとして、今を頑張ってください。



滝上 紘之君
(52期) 2002年卒

好きなだけ、考えよう

「この学校で生活するコツは、大人として振る舞うことです。高等学校は子供の来る場所ではないのです。」

私が 1999 年 4 月に入学してまもなく開催された新入生歓迎会。そのパンフレットに掲載された、ある先生からの言葉です。その時は面喰らったものですが、徐々に受け入れられるようになりました。

他の卒業生による文章でも触られることと思いますが、志木高の特徴を一言で表すならそれは「自由」です。もちろん、学校から与えられた勉強以外のことに打ち込める時間が多いという意味もありますが、（大学受験に向けたような）何か一つに決まった答えを求める類のものにはとどまらない授業の数々にも、自由という言葉は当てはまると思います。志木高においては、生徒のみならず教員にも自由があります。

そのような環境の中で最も大切なのは、「自分で考え、悩み、決めて行動する」ことでしょう。そしてそのことは、卒業後も、いつまでも大切です。

私は今、精神科医として臨床の場にいます。しかし臨床医としての自分を選択するまでの道のりは一筋縄とはいかず、脳科学研究の場を選んだこともあったり、そもそも臨床医の経験しておくべきか悩んだこともあったりしました。あるときには挫折し、周囲に大きな迷惑をかけたこともあります。でも反省はありましたが、後悔はありません。全てが、私とその先について考え決めるにあたっての財産になりました。

精神医学には、「支配観念」という言葉があります。「強い感情に結びつき、思考のペースとなる観念」という意味ですが、多かれ少なかれ、この文章を読まれている皆様も、自らの考え方や行動を規定するような何かをお持ちのことと思います。初志貫徹という言葉の通り、その「何か」に従って進む道もありますが、そのような支配観念を突き崩すような現実と直面することもあります。そのとき必要になるのは、その現実を見て見ぬ振りをするのではなく、自分が依拠してきたものは何かを自覚し、その「何か」が、そこにおいてなお最優先されるべきものであり続けているかを、自問することでしょう。

志木高の自由は、まず私の支配観念に、風穴を開けてくれました。そして私が悩み考える自由を、与えてくれました。

回り道をして良い、そのぶん長生きすれば良い。志木高にはきっと、「普通の人」はいません。志木高で学んだ時には、面白くて変で、かつ自分でものを考える人となって卒業すると、私は確信するものです。

これから志木高生になる君たちへ

志木高で学ぶ・・・。大学で学ぶ・・・。

在校生からのメッセージ



乙幡 文翔君
(3年)

私たちはなぜ勉強するのでしょうか。義務教育である小学校や中学校では、社会に出るための最低限の知識を学ぶことが多いでしょう。皆さんが今励んでいるであろう受験勉強は、試験に合格する思考力を身につけるためのものかもしれませんが、ですが志木高での学びの多くは、そうした今まで皆さんが勉強してきたであろうものとは大きく異なります。

志木高では、自分の価値観を広げ、人生に彩りをもたらしてくれる「学問」を学ぶのです。私の受けた現代文の授業を例に挙げてみましょう。その授業では一年間、村上春樹の作品を読んでいきました。初期のものから比較的最近のものまで扱い、当時の時代背景や作者の境遇など、様々な点から考察しました。作中に登場する映画や音楽を鑑賞したり、背景にある事件についての記事や漫画を読んだり、文中の不思議な光景をどんなものか想像して、校内に再現し写真に収めてみることもしました。グループに分かれて考察の発表をし、その後ディベートをすることも多く、仲間たちと理解を深めあい、時に自分の考えもつかない新たな解釈に驚かされることもあります。こうした受験から解放された志木高だからこぞ味わえる学びは、必ずや皆さんの人生を豊かにしてくれるでしょう。もちろん国語以外でも、たくさんの分野で、個性的かつ興味深い授業が広がっています。

自分のための自由な勉強を志木高でしてみませんか？ そうしてもし学問の楽しさを知ってもらうことができたのなら、それ以上に嬉しいことはありません。



大崎 倫誉君
(3年)

私が考える志木高の良いところは、自分で考える力を養うことができることです。この学校には校則がほとんどなく、受験勉強が必須でないため、自分の興味のあることに自主的に取り組むことができます。また、志木高には語学課外講座や国際交流プログラム、高大連携講座など自らを磨く機会が用意されています。何が自分のためになるのか自問自答し、様々なことに挑戦しながら有意義な時間を過ごすのです。

志木高では、授業の内容も思考力を高めるものとして展開されます。物理や化学では多くの実験を行います。単に講義で知識を教わるだけではなく、教わった知識を実験で身をもって体験することができます。また、実験後にはレポートが課され、実験について論理的に考察することが求められます。レポートを書くことで、自分で考える力がつき、様々な法則や現象についてより深く理解していくことができるのです。

理科の実習として最も印象的なものに2年生の研修旅行があります。2年生では物理・化学選択者と生物・地学選択者に分かれていますが、研修旅行では自分が選択していない分野についても実習や観察を行います。普段は学んでいない新しい分野の知見を広げる機会です。また、共に寝食し互いに教え合いながら絆を深めていく貴重な体験になります。

今後の人生の中で自分の頭で考え最適な答えを出す力がようになってくるでしょう。その力を身に付けられることこそ志木高の最大の強みであると思います。



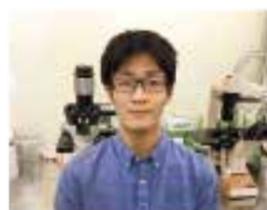
阿部 倅地君
(3年)

私は2016年4月から、空手のナショナルチームに所属し、形の選手としてマカオ、上海、クアアチア、メキシコ、ロシア、スペイン、モロッコに遠征もしました。特に、16歳になってからは、シニアの国際大会にも参戦するようになったため、学校と遠征の両立、空手の練習時間と勉強時間の確保が、今でも最も難しい課題です。しかし、志木高での机の上に収まらない勉強と、志木高で培われた精神が大いに役立つことが多々あります。

例えば語学。志木高の英語の授業は、個人又はグループでのプレゼンテーションや多読など実践的なものが多く、また、ポルトガル語やドイツ語など、英語以外の言語を学ぶこともできます。私が2年生の時に受講していたサンスクリット語の授業では、インドカレーと日本のカレーの違いから両文化の相違を考察し、実際に先生とインドカレーを食べに行く授業もありました。

多くの高校生が、大学受験のために知識を詰め込む勉強をしているのに対し、志木高では、独立自尊の精神のもと、個性的な先生方と良い仲間達の中で、自ら学び探究していく力が身につきます。

空手の遠征で色々な国に行くたび、言葉も食べ物も風習も異なる環境の中で、私は志木高での学びと経験を生かし、世界中に友人を作ることができました。今では外国の空手仲間が来日して一緒に稽古をしたり、国際大会の観客席と一緒に試験勉強をすることもあります。語学だけでなくどこでも勉強できますが、志木高での生活で、かけがえのない学びの精神を得られたことは、私の人生の大きな財産の一つとなったことは間違いありません。



林 聡一郎君
(65期、理工学研究科修士課程 2年)

私は現在、理工学研究科基礎理工学専攻に在籍し、主にがんの研究を行っています。私が今の道に進んだきっかけは志木高にあります。

大学受験にとらわれない授業スタイルが志木高の最も特筆すべき点だと思います。中でも、特に印象に残っている授業が3年時の選択化学です。この授業は大学レベルの実験を行います。講義は一切ありません。そのため、必要な知識は全て自分で調べ、得られた結果を考察しなければなりません。この経験は、間違いなく今の自分の糧となっています。

志木高での生活は自由に満ち溢れています。この広い敷地の中で、学問に打ち込む人、部活に打ち込む人、課外活動に打ち込む人など、実に様々な人と生活を共にし、自分自身も大きく成長します。きっと入学時と卒業時では別人のように考え方や価値観が変わっているでしょう。

志木高での生活を経て、私は自分で物事を考える力が養われたと実感しています。この力は学問のみでなく、日々の生活においても必要不可欠だと思います。皆さんもかけがえのない3年間を志木高で過ごしてみませんか？



田口 智大君
(68期、法学部政治学科 3年)

私は、法学部政治学科に進学しました。そして、「旅」という趣味を見つけて大学生活を楽しんでいます。志木高時代はサッカー部に所属し、練習に多くの時間を割いていました。

大学では政治を学ぶとともに、旅を通じて興味を持った国際問題についての勉強をしています。その土台を構築したのは志木高の授業です。特に文学特論の授業に大きく影響を受けたと思います。その先生の研究の世界に近い距離感で感じることができたことで、新たな世界や価値観を知る愉しさを感じることができました。現在、読者の方に知らない世界を提供することを目標として、旅の経験を発信する雑誌製作に取り組んでいます。これも志木高時代の経験の影響で、同じ経験を多くの人に経験して欲しい、と考えています。

また、志木高生は自分の好きなこと、打ち込めるものという独自の世界を持っている人が多い印象です。志木高の余裕のある校風が影響しているのかもしれませんが、そんな仲間と過ごす毎日は非常に刺激的な日々でした。みなさんもそんな学校で、好きなことに打ち込む生活を送ってみませんか？



宮島 宗利君
(68期、総合政策学部 3年)

私は卒業後、総合政策学部に進学しました。この学部は湘南藤沢キャンパス(SFC)にあり、慶應義塾の中でも比較的新しく作られた学部で、最先端機器を使ったデザインや建築など、幅広い研究分野を扱っています。SFCは在籍する内部生が非常に少なく、志木高生は特に数える程しかいませんが、どこに行っても、志木高のレベルの高さを実感します。

志木高はとても自由な場所です。自分の選択次第で、ゆったりとゆとりある学校生活を送ることもできる一方で、自分の興味に応じた学習や研究をどこまでも突き詰めていくことだってできます。3年間でその両方を実現することも可能です。これは生徒だけの話ではなく、先生方も自由で、独特な授業を展開されています。専門性の高い授業や身近な問題に切り込んでいく授業、「そんなのアリ!?!」と思ってしまうような授業まで、実に幅広く、バラエティ豊かな講義であふれています。どんな選択をしたとしても、志木高での3年間は、きっと後の自分にとってプラスに働くことでしょうし、学びだけでなく、仲間や先生方との関わりも充実したものになるはずですよ。是非とも志木高で、豊かで充実した学校生活を送ってほしいと思います。

大学とのつながり

1 高大連携講座・授業公開

高大連携の試みとして、慶應義塾大学文学部の授業(オムニバス講座など)や理工学部の授業(数学)を聴講できる制度が設けられています。ここで単位を取得すると、一定の要件を満たしていれば、文学部・理工学部進学後にも大学の単位として認定されます。

2 クラブ活動

運動部・文化部問わず、本校のクラブ活動の多くは大学や慶應義塾内の一貫教育校と強く結びつきながら展開されています。例えば、大学からコーチを招いたり、慶早戦を共に戦ったり、塾内で対校戦が開催されたりします。大学でも活動を続ける卒業生も多く、そうした先輩たちから大学の情報を直接聞き、その雰囲気を感じ取ることができます。

3 学部説明会・学部見学会・模擬講義

志木高から慶應義塾大学に進学する生徒に対しては、学部選択に必要なさまざまな情報を得る機会が用意されています。第3学年次には7月に全学部による学部説明会が開かれ、大学の先生方から直接学問研究の最先端のお話を伺うことができます。この他に医学部、理工学部、薬学部がそれぞれ見学会を設けています。また、夏休みを中心に一貫教育校の高校生を対象とした模擬授業や模擬ゼミが各学部で行われています。過去の一例を紹介すると、以下のような講義・ゼミのテーマがありました。

【文学部】 「科学の宗教批判をよく見るとテツガクが見えてくるというおはなし」	【法学部】 「刑法学では何を学ぶかー正防衛を素材として」
【経済学部】 「行動経済学とビッグデータで経済経営現象を理解する」	【商学部】 「少子高齢化と日本経済の未来: AIが移民か」

4 慶應志木会・三田会

志木高で共に学ぶ仲間とは、卒業後、慶應義塾大学でも共に学ぶこととなります。そのため、高校・大学を通じて苦楽を共にした卒業生の結束は固く、同期だけでなく、先輩・後輩とも日常的に一致協力する姿がしばしば見られます。それを支えているのが、本校独自の同窓会組織「慶應志木会」です。また、慶應義塾大学では各学部・研究会(ゼミナール)・体育会各部門はもとより、居住地域や職場単位に至るまで、一般に「三田会」とよばれるさまざまなレベルの同窓会が組織されています。こうした縦横無尽のつながりが、実社会に出てからも新たな人脈と機会を生み出し続けます。

教育環境

教育課程

教育目的を実現するためには、教育課程(カリキュラム)が確かなものでなくてはなりません。

本校の教育目的

本校の教育目的は福澤諭吉の建学の精神に基づいた、慶應義塾大学に進学する前段階としての高等普通教育を行うことにあるが、そのために、本校教員は日頃次の四つの教育目標に向かって努力している。

1 塾生としての誇りを持たせること

独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生となる教育を行う。

2 基礎的な学問の習得

将来、社会の各分野で立派に活動するため、また本塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を知らせるとともに、自主的に学習するように指導する。特に大学一般教育課程に応じた学習指導に留意し、学力の全体的向上をはかる。

3 個性と能力をのばす教育

現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。

4 健康を積極的に増進させること

ただ健康管理に留意するのみでなく、各人に適したスポーツに参加することによって積極的に健康を増進させる。

時間割

1 時限	8:30~9:20
2 時限	9:30~10:20
20 分休み	10:20~10:40
3 時限	10:40~11:30
4 時限	11:40~12:30
昼休み	12:30~13:10 (40分)
5 時限	13:10~14:00
6 時限	14:10~15:00
7・8 時限	15:10~17:00 (※語学課外講座)

本校では4月1日~3月31日までの1カ年を通して単一学期としていますが、学習指導等の便宜上、第1回定期試験までを1期、第2回定期試験までを2期、最終授業日までを3期とよぶならわしがあります。

教育課程表

(2019年度以後入学第1学年より適用)

教科	科目	学年	1年				2年				3年							
			必修	必修	必修	選択	必修	必修	必修	選択	必修	必修	必修	選択				
国語	国語総合		4															
	日本語表現			2														
	現代文A			2														
	古典A			2														
	日本語各論					3												
	文学特論(い)												2					
	文学特論(ろ)													2				
	文学特論(は)														2			
	日本語特論														2			
	社会	世界史B				4												
日本史B							4											
社会A															2			
社会B															2			
現代社会				2														
政治・経済										3								
社会C															2			
社会D															2			
数学		数学I		3														
		数学II				3												
	数学A		3															
	数学B				3													
	数学III														4			
	微積分基礎														2			
	数学特論														2			
	生物基礎		2															
	物理基礎		2															
	理科	物理																
地学基礎																		
化学基礎																		
生物																		
物理																	2	
地学																	2	
化学																	2	
生物																	2	
保健体育		体育		3	4	2												
		保健		2														
	音楽I																	
		美術I																
	音楽II																	
		美術II																
	芸術A																	2
		芸術B																2
	外国語	コミュニケーション英語I		4														
		コミュニケーション英語II				3												
コミュニケーション英語III																	3	
英語会話			2															
英語表現I																	2	
総合英語																	2	
英語A																	2	
英語B																	2	
英語C																	2	
ドイツ語																	2	
フランス語																2		
家庭	家庭基礎		2															
	情報の科学		2															
情報	情報処理																2	
	総合的な探究の時間		(1)	2														
小計			33			33				23							10	
ホーム・ルーム			1			1				1								
合計(時数)			34			34				34							34	

(注)

- 各科目それぞれの算用数字は、単位数および週当たりの時間時数を示す。ただし、第1学年の「総合的な探究の時間」は単位数を示し、各学年の「ホーム・ルーム」は週当たりの授業時数を示す。
- 第2、第3学年の必修科目は2年次「物理」「化学基礎」、3年次「物理」「化学」の組み合わせか、2年次「生物」「地学基礎」、3年次「生物」「地学」の組み合わせのいずれかを選択することを原則とする。
- 芸術の科目は、学年順に、「音楽I」、美術I、美術IIであるいは、「美術I」、音楽I、音楽II」を選択し履修しなければならない。
- 第3学年の選択科目は、10単位を履修する。
- 数学IIIと微積分基礎とは同時に選択できない。
- 医学部に進学を希望する者は、第3学年の必修科目の物理、化学、および選択科目の数学III、化学、生物を履修しなければならない。
- 理工学部に進学を希望する者は、第3学年の必修科目の物理、化学、および選択科目の数学III、物理、化学を履修しなければならない。
- 薬学部に進学を希望する者は、第3学年の必修科目の物理、化学、および選択科目の物理、化学を履修しなければならない。
- 「総合的な探究の時間」については、別に定める。

教科紹介



確かな知力と物事を深く考察する冷静な判断力を養うということが、志木高の目指す教育です。そういった意味で各教科は別々に存在するのではなく、この大きな目標を達成するための手段として、強く結びついています。志木高は慶應義塾の一貫教育校として、大学進学を見据え学問の真髄を追究する学びを目指します。そしてこの学びこそが、社会に出たときに真の力となってくれることを信じています。

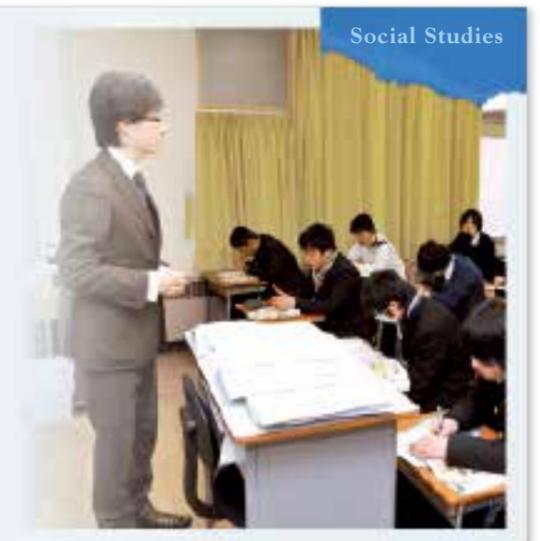
国語

第1学年の「国語総合」では、古典・現代文の基礎を総合的に学び、第2学年では近世を中仕切りにして、それ以前の古典(漢文を含む)を「古典A」で、近世以後の作品を「現代文A」で扱い、鑑賞力を磨きます。「日本語表現」では、グループ発表、調査・取材、文章・音声表現、創作といった実技を通して、表現力を養います。第3学年の「日本語各論」では、専門性の高い内容を深く学び、自由選択科目では、多彩なテーマに沿って、少人数制の長所を活かし各生徒の探求心に応え、豊かな個性を伸ばします。3年間を通して、自ら考え判断する確かなことばの力を身につけることに、本カリキュラムの主眼があります。



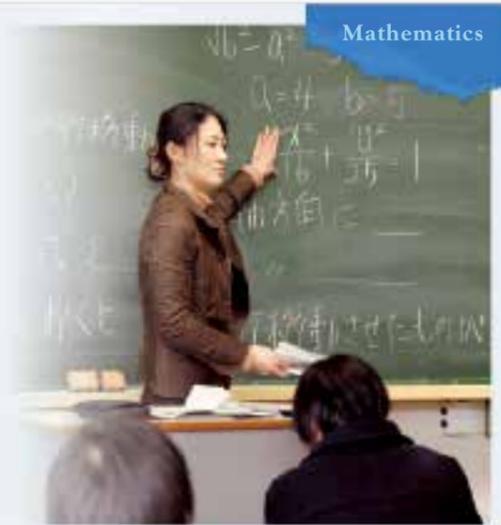
社会

社会科(地理歴史・公民科)では、必修科目として第1学年次に「現代社会」、第2学年次に「世界史B」、第3学年次に「日本史B」・「政治・経済」を学び、あわせて第3学年次には、自由選択科目として、より専門性の高い「社会A」~「社会D」も選択履修することができます。授業内容は、いずれも生徒諸君の高い知的関心に応え、大学での学びや社会生活を強く意識したものとなっています。履修を通じて、歴史や法律、政治、経済などに関する基礎的な知識と教養が身につくと同時に、これらの諸分野への関心が深まり、自分の力で読み、調べ、考えることができるようになるはずです。



数 学

第1～2学年では、全員が高校数学の知識を身に付けられるように、2科目をそれぞれ週3時間とじっくり時間をかけて、基礎から教科書の内容を超えた応用に至るまでを学びます。また第3学年の自由選択は、大学進学も視野に入れながら多様な数学を学びます。そこでは、経済学等を学ぶための微積分、理工学部・医学部への進学希望者のためのより深い内容の微積分、さらに、年度によって統計学や線形代数学等の講座が用意されています。3年間の授業を通して、文化としての数学に関するさまざまな話を聞けることでしょう。



理 科

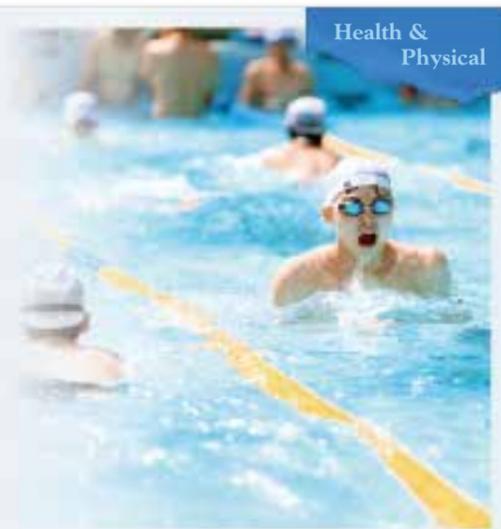
理科の方針を一言で表現するならば『実践主義』ということになります。第2学年では、理科全科目がそれぞれ課題を設定した研修旅行を諏訪～糸魚川を舞台に行い、自然環境への観察力を養っています。あわせて、第2学年以降では自らの意思で選択した2科目について窮めていきます。物理・化学では各自の観察力と論理的理解が重視され、大学課程に匹敵する実験が行われます。生物・地学では校内の自然環境を十二分に活用した生物演習と専門性の高い地学演習。そして、その延長に気象予報士資格取得講座なども用意されています。理科の全科目を通じてレポートによる自己研鑽が重視されます。特に第2学年で行われる研修旅行で作成されるものは、たいへん大きな意義を持っています。



保健体育

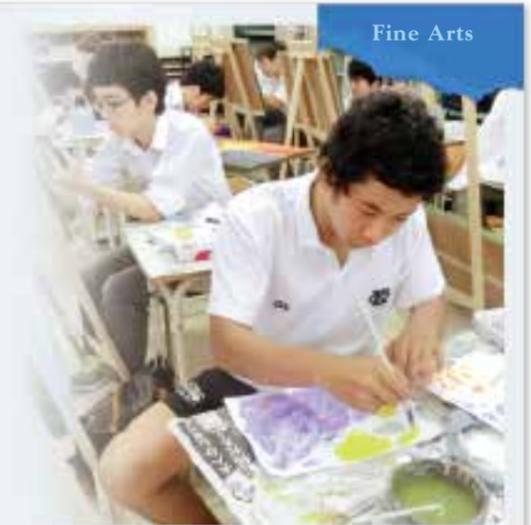
保健体育では、3年間の学習を通じて、生涯に渡って運動に関わり続けるために必要な知識や技能を身につけさせることを目指しています。

- ・体育は、第1～2学年で「球技」や「水泳」、「長距離」などを行います。「球技」では、基本技術を中心にゲームが楽しめるまで学習し、基礎体力の育成も重視しています。「水泳」では、能力に応じて泳ぎ方の学習を進めています。「長距離」では、さまざまな距離を走ること持久力の向上を図るとともに、12月に行われるマラソン大会（10キロ）の準備を行います。第3学年では、主に「球技」を行い専門的な理論に基づく高度な技術の習得とゲームへの応用までを学習していきます。
- ・保健は、第1学年で週2時間集中的に学習します。講義形式の授業以外に学習発表やレポートを通じて保健の理解を深める機会を設けています。



美 術

志木高の美術の授業は充実しています。普通科高校では美術の授業が減少傾向にあるなかで、志木高では第1学年から第3学年まで必修選択で2単位ずつ授業が確保されています。また第3学年次には自由選択科目（芸術B）も履修でき、多感な高校時代に美術に触れる機会がしっかりと準備されています。授業ではデッサン・アクリル画・立体作品などを扱い、様々な資料や時には志木高の自然もモチーフとして、作品が独自の物となるように生徒それぞれが工夫できるように授業を進めていきます。自由な雰囲気なかでの作品制作を通じて、自分の視点で物を見る感性を養い、自らの秘めた可能性に気づくのです。それとともに友人の良さにも気づき、お互いを認め合う雰囲気での日々の授業が行われています。



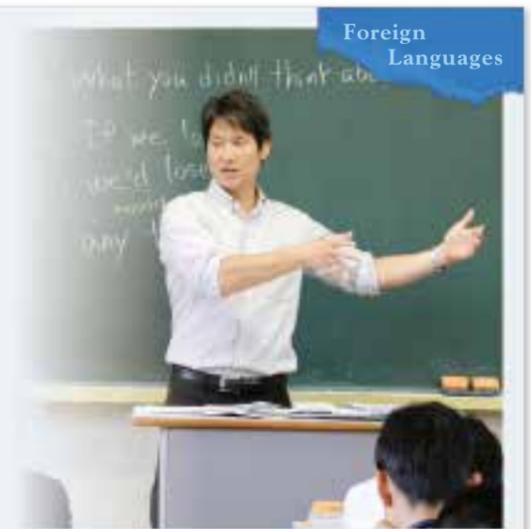
音 楽

音楽を愛好するための知性・感性を豊かに育成していくことを目標に授業を行っています。第1学年音楽選択者に対しては、独唱や合唱による「歌唱」を中心に、「器楽」・手拍子等を駆使した「リズム表現」など、主として実技を通じて自己の表現の手段を拡大していくことを目指して授業を行います。第2・3学年音楽選択者は、実践的な学習を通して音楽へのさらなる理解を深めていきます。第2学年では「歌唱」（合唱）の授業展開を柱に置き、またボディーパーカッションや楽典なども行います。第3学年では基礎的な和声法をもとに偉大なクラシック作品を楽譜をもとに分析し、楽曲がいかに作曲されるのかを明らかにしていきます。



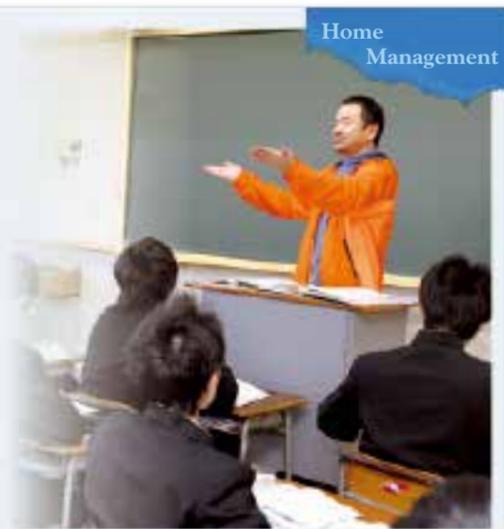
外国語

本校の英語学習における目標の一つは基本的な知識・技術の定着と統合的な言語活動を通して、自律的な学習者となることです。単語や文法の小テストなどに加えて、多読・多聴にも取り組みたくさんの英語に触れながら、プレゼンテーションやライティングで英語を運用します。教科書以外にも、新聞、雑誌、映像、音楽など様々な教材に取り組みことでモチベーションが高まることでしょう。各学年で毎週2回、少人数分割クラスで授業を受けます。ネイティブ・スピーカーの教師のもとで英語使用の機会が増えます。少人数で学ぶことで集中しやすくなり、英語で話すことへの抵抗も軽減するはず。第3学年では自由選択科目として、英語に加えてドイツ語とフランス語の講座もあり、映画や小説または音楽など幅広いテーマを題材に異文化理解を深めます。希望者が集い、個性的な内容を学習する選択科目は、濃密で深い学びの場となります。



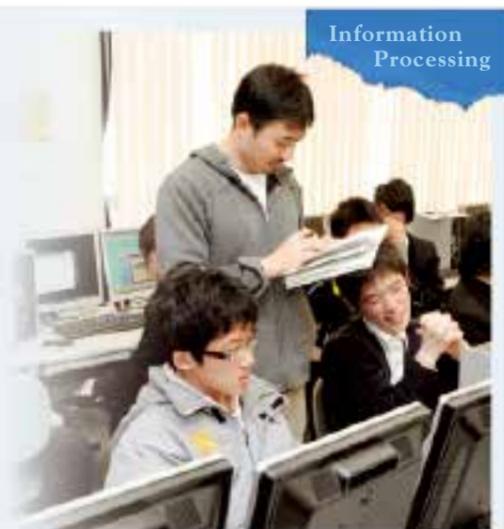
家庭

高等学校の家庭科では、家庭を経営する主体としての立場から学習することとされています。本校では主として消費者教育・家族の法律・家事労働論などの社会科学系の内容に力を入れています。その他にも食物の分野では調理技術よりは家族の健康管理に関わる栄養学的なトピックを、被服製作では自分が着るためというよりも製作を通じて人に喜んでもらうことを目標にしています。単なる知識の習得にとどまらず、さまざまな作業を通じて勤勉さなどについても洞察できるよう配慮しています。



情報

第1学年次に「情報の科学」(必修科目)、第3学年次に「情報処理」(選択科目)を設置しています。情報の科学では年間時数の約半分を実習に割り当て、コンピュータの操作方法、情報モラル、ワープロ・表計算ソフトウェアの使用方法、Web Page 作成、コンピュータのしくみなど基礎的な事項を学習します。また情報処理では希望選択者を対象に情報の科学を基礎科目として、発表(コンピュータを用いてプレゼンテーションを行う)、プログラミングなど一歩進んだコンピュータの使い方に関して学習をします。また休み時間にはコンピュータ教室を開放し、自主学習ができるようにしています。



総合的な探究の時間および語学課外講座

本校では、この総合的な探究の時間を2学年にわたって実施しています。第1学年では、旅行中のフィールドワークによって自然環境、歴史や文化財について学びます(p.013 参照)。第2学年では、言語、民族、文化、歴史などに関する24の講座から受講したい2講座を選択して履修します。具体的には「沖縄語(うちなーぐち)やんどー」、「アイヌ文化に触れる」、「サンスクリット語の世界」、「トルコ語から見る文化の世界地図」、「ハムラビ法典を読む」といったユニークな講座で構成されています。

さらに、本校では、週1回7・8時限に20前後の語学課外講座を開催しています。身近な言語からなかなか触れる機会が少ない言語まで、大学でも受講できないような言語も多数そろっています。毎年優れた先生方をお招きし、希望する生徒に開放しています。3年間ひとつの講座を受講しつづける生徒、3年間別々の講座を受講する生徒等々、参加の仕方もそれぞれです。言語の習得を旨としておりますが、少数ゆえに生じる個性豊かな担当の先生方との濃密なコミュニケーションも期待され、多感な年齢の生徒たちには、非常に大きな意義をもつものとなっています。

※総合的な探究の時間および語学課外講座で現在対応している講座
アイヌ語、アラビア語、イタリア語、インドネシア語、ベトナム語、沖縄口(うちなーぐち)、古典ギリシャ語、古典ラテン語、サンスクリット語、スペイン語、スワヒリ語、タイ語、中国語、韓国語、ドイツ語、トルコ語、ビルマ語、フィンランド語、フランス語、ヘブライ語、ペルシア語、ホルトガル語、モンゴル語、ロシア語



自由選択科目

本校のカリキュラムの中でも最大の特色が、第3学年次に履修することになる「自由選択科目」です。第2学年次に行われるガイダンスと『講義要綱』を参考に、自分の興味・関心や進路に応じて、10単位を選択することができます。例年20以上の講座が開講されており、講義や演習、実験、プログラミングや作品の制作、合唱に至るまで、非常にバラエティに富んだ授業が展開されています。授業内容は時に大学レベルにも及び、生徒たちはこれらの科目を履修し、思索を深めながら、人生の基礎となる広い知識と豊かな感性を育てています。

[2020年度の開講例(一部)]

文学特論(い)：SF／ファンタジー入門
文学特論(ろ)：ジブリ作品でたどる日本文学
日本語特論：日本語とコミュニケーション
社会 A：宗教と美術 — 前近代の日本とアジア—
社会 D：「リア充」からはじめる哲学・社会思想入門
微積分基礎：文系学部や薬学部志望者を対象とする
数学Ⅲの範囲の微積分
数学特論：数理統計学
情報処理：プレゼンテーションとプログラミング



物理：理工学部進学を見すえた物理学
地学：日本の四季の天気
— 天気予報のための読図と予想 —
芸術 A：男声合唱の世界
英語 A：Basic American Studies
英語 C：An Introduction to Academic Writing

研修旅行

研修旅行は学習を目的とした旅行で第1・2学年次に実施されます。

第1学年は「総合的な探究の時間」の一環として、2泊3日で三浦半島方面での研修を行います。鎌倉や横浜を中心とした自由度の高い班別自主研修と、小網代の森や浄楽寺などでの現地の方々にご案内いただくクラス別行動を組み合わせ、複合的に当該地域の理解を深めます。

第2学年は、3泊4日で諏訪から糸魚川地域周辺を訪ねて理科の総合的な研修を行います。具体的には、諏訪湖・木崎湖・青木湖の水質を調査して湖沼生態系について考えながら、環境汚染の問題を考察します。また、世界ジオパークに認定されている糸魚川地域の地質を調査しながら日本列島形成の歴史を考察したり、古い時代の岩石の生成年代を算出する仕組みなどについて理解を深めます。

第1・2学年ともに旅行が終了するとすぐにレポートの作成に執りかかります。自分で見たものを自分で考えてまとめるという訓練は本校ではすべての教科に通じます。特に第2学年では教科として深い考察が要求されます。旅行の最中から要点を友達同士でまとめあっている姿を見かけます。こんな研修旅行のあり方も志木高の良き伝統になっているのです。



施設案内

個性的な授業や生徒の活動をサポートする様々な施設が用意されています。それらを使い活動する中で、マナーを学び、社会性を自覚していきます。



管理棟

①

- 校長室
- 教員室
- 事務室
- 保健室
- 会議室
- カウンセリングルーム



普通教室棟

②

- ホーム・ルーム教室(20教室)
- 特別教室(4教室)
- ロッカー



理科系特別教室棟

③

- 生物、物理、化学実験室
- 階段教室(2教室)
- 地学教室
- 地震計室
- 天体観測室



文科系特別教室棟

④

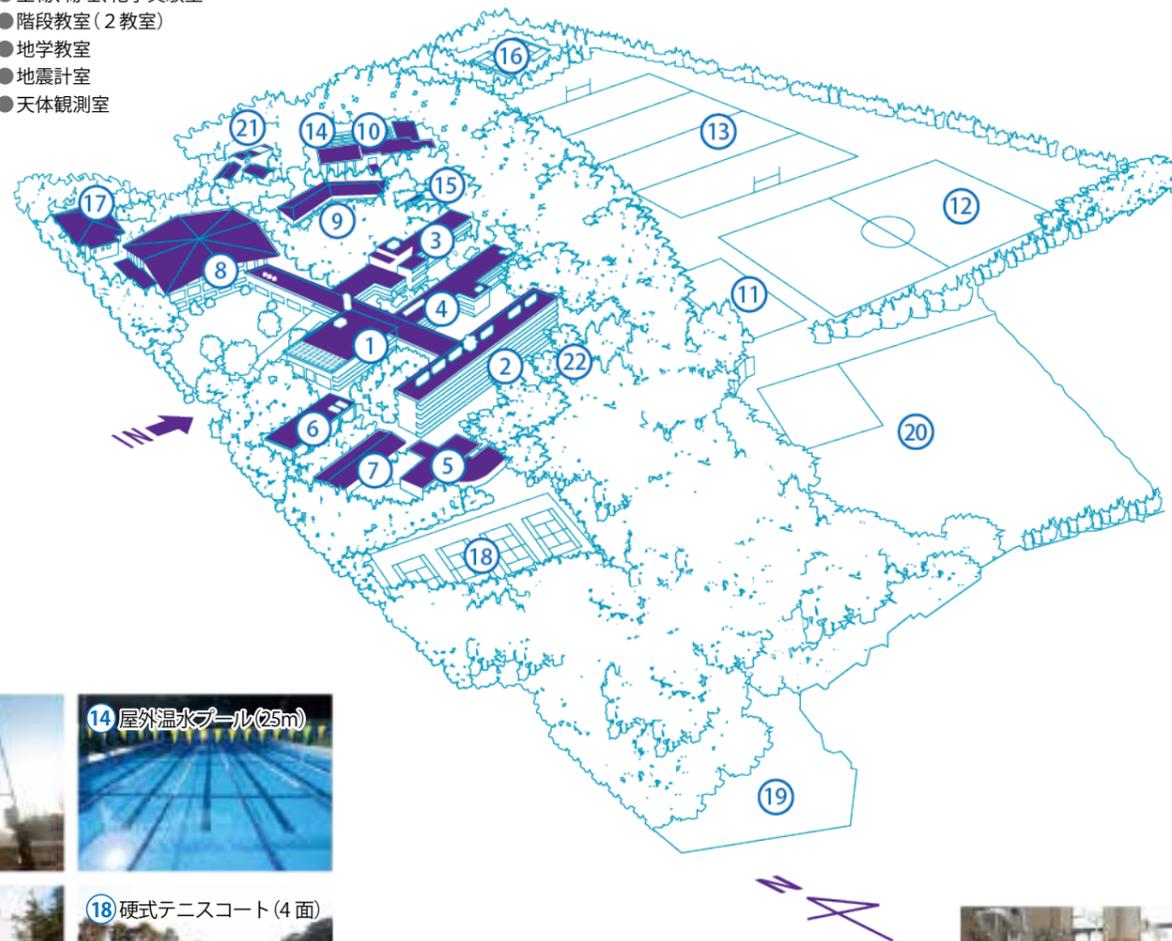
- 社会科教室(2教室)
- 外国語科教室(2教室)
- 美術、製図教室



図書館

⑤

- 図書室
- PC教室



⑪ ホッケー場



⑫ サッカー場



⑬ ラグビー場



⑭ 屋外温水プール(25m)



⑮ 弓道場



⑯ ソフトテニスコート(2面)



⑰ 柔道場・剣道場



⑱ 硬式テニスコート(4面)



⑲ 実習農園・ビオトープ



⑳ 野球場



㉑ 《有朋舎》部室棟



㉒ 憩いの広場



メディア棟

⑥

- コンピュータ教室
- 視聴覚小教室(7教室)



特別教室棟

⑦

- 音楽教室(2教室)
- 合併教室



体育館兼講堂

⑧

- バスケットコート兼バレーコート(2面)
- 卓球場
- ステージ
- シャワールーム
- 地階：食堂、売店



陽光舎

⑨

- 部室
- 多目的ルーム
- シャワールーム
- 音楽練習室



去来舎

⑩

- トレーニングルーム
- 和室
- 音楽練習室
- 宿泊室(約80人収容)
- 大浴場

去来舎とは宿泊施設とトレーニングルームを備えた複合施設であり、部活動や授業、生徒会、クラスなどでの様々な活動に使用されています。宿泊施設には多目的ルームや大浴場、エアコンが完備されており、生徒は1泊600円(別途食費、寝具代)で宿泊できます。

トレーニングルームには最新の機器がトレーニングジムさながらに設置されています。

去来舎の名前は福澤先生の言葉「戯去戯来自有真」(戯れ去り戯れ来り自ずから真あり)に由来しています。これは、人生とは戯れだという心の余裕を持ちながら、その人生を真面目に、そして積極的に生きることの大切さを説いた言葉です。この言葉のもとに志木高生はさまざまな友人と集い、体を鍛え、寝食を共にし、いろいろなことを語り合い、それぞれの目標に向かって邁進しています。

志木高の四季

～自然と共に学ぶ～



今も武蔵野の疎林地帯の面影をとどめる校地には、かつては野火止用水が流れていました。江戸時代、川越城主松平伊豆守信綱が新田開発のために灌漑した用水です。現在ではその跡を留めるだけになってしまいましたが、約600種以上の植物を育む自然の豊かさは健在です。春は最初に、森でコブシの花が咲きはじめ、やがてソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラと次々に桜が開花します。春の七草をはじめ、ムラサキケマン、タチツボスミレ、カントウタンポポなどの野の花が咲き、林ではフデリンドウ、ヒトリシズカ、カタクリなども秘かに咲きます。夏に向っては帰化植物が勢いを増しますが、秋になると柿の実が色づき、落葉樹が校内を美しい紅葉で埋めつくします。そんな情景の中を、シジュウカラ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、コジュケイなどが一年中訪れます。現在も20種を超える野鳥が観察できます。そして、防火用の人工池でカルガモがかわいい雛を孵すのは本校の初夏の風物詩となっています。

(このページの文章は、校内誌「四季—志木自然報告—」からの抜粋です。内容は掲載当時のものです。)

春 『南方からやってくる蝶たち』

池には水を求めているいろいろな動物がやってきます。先日、そんな中に見慣れないチョウを見つけました。ぱっと見たところはゴマダラチョウなのですが、後ろ羽に赤い斑点がはっきりと見えるので違う種類です。さっそく調べたところ、同じタテハチョウ科のアカボシゴマダラであることがわかりました。しかしこのチョウは国内では奄美諸島にしかいないチョウです。時を同じくして、校内のエノキにゴマダラチョウの幼虫や蛹がたくさんいると聞いてみると、これもアカボシゴマダラの幼虫であるとわかりました。なんと南国のチョウが校内で繁殖していたのです。この他にも、最近校内ではたびたび見かけるツマグロヒョウモンも、本来は南方系のチョウです。なんでも地球温暖化のせいにするわけにはいきませんが、身の回りの環境が我々の気づかぬうちに変化してきているのは確かでしょう。

秋 『栗立ち』

カルガモが9月1日に無事に巣立っていきました。8羽孵ったヒナの中で1羽だけが巣立ちまで育ててくれたのです。カルガモの寿命は3、4年と言われていますので、来年無事につがいをつくって戻ってくるのを祈るのみです。志木高の防火用水池で初めてヒナが孵ったのは1993年。それ以降、巣立ちまでたどり着かないことはあっても、19年間毎年カルガモは本校の池を訪れてくれます。巣箱も既に4世代目に入りました。野鳥なので過保護に扱う気はありませんが、訪れてくれた客をもてなすのは礼儀である、という思いもあります。長い付き合いになりました。



『地中温度計救出作戦』

百葉箱横では地中温度を測定していますが、深さ2mの温度を測る温度計のチェーンが切れてしまい、筒の周りに穴を掘って筒ごと取り出すことになりました。6名のラグビー部員が炎天下の中、2日間、合計9時間の穴掘り作業を行い、ようやく温度計を救出することができました。掘っている途中では旧農高時代の遺物と思われる石の土台なども発見できました。ラグビー部員の献身に感謝です。

『実習農園を潤す井戸』

実習農園に井戸が完成しました。志木高は台地上にあり地下水位が低いので、専門業者に掘削してもらい、農業用として大変いい水が出ました。これで、田畑、およびピオトープ池にも水道水を使わずに給水できるようになりましたので、ようやく校内での自給自足の農業、本来の自然農法ができる設備が整ったと言えます。地下水で水を供給し、校内の雑木林から腐葉土を作ることで田畑への肥料を賄う、再生農業の始まりです。

夏 『初夏の吹雪』

6月の初旬から中旬、校内をフワフワと綿毛が飛びます。ピロティのそこそこに綿毛が固まっています。天気の良い日の野球場やサッカー場には綿毛の吹雪が舞います。志木駅のプラットホームにまで飛んでいっています。膨大な量です。これらは本校にあるわずか1本のポプラの樹が作り出した種子です。野球場のトイレのそばに立つポプラの樹が種子を飛ばすのは年中行事で、校舎内外で綿毛を目にするようになると、間もなく梅雨入りであることを感じます。本来、高緯度地域に生育する樹ですが、なぜか本校内でも体育館横に生えているプラタナスと双壁をなす巨木となっています。あれだけ膨大な種子を毎年飛ばしながら、校内でその実生を見かけない、ということは種子が不稔であると考えられます。ポプラの、樹としての寿命は何百年も続くものではないようですが、まだ当面は目にする事ができるでしょう。

冬 『ニホンミツバチ』

先日、校内の林中でニホンミツバチの巣を発見しました。2月のまだ寒い中、すでに足に花粉を付けた働きバチがせっせと巣穴を出入りしていました。まだ花に乏しい季節でしたが、梅の花が咲き出していたのでその蜜に誘われ活動をはじめたのでしょうか。一方、校内では暖かくなると、オオスズメバチが我が物顔で飛び回るのを見かけますね。このオオスズメバチはミツバチの巣を見つけると攻撃を仕掛けます。ところがニホンミツバチは対抗策を心得ています。1匹のオオスズメバチを数十匹で取り囲み羽を振動させ、いわゆる蜂球の内部を50℃近くまで上昇させて蒸し殺すのです。かつてのニホンミツバチの養蜂は、自然の分蜂群を巣箱に誘い入れ、集めた蜜の半分をもらい、また自然に分蜂して帰すものでした。人と自然との共生と言えるかつての日本人の生業を見習いながら、今後も校内の巣を観察していきたいと思えます。

『慶應志木自然観察会』

地域との交流をめざす自然観察会は、3年目にして参加者数90名を超え、近隣の方々の本校の自然への関心の高さがうかがえます。本校を取り巻く志木市、朝霞市、新座市はそれぞれ31万㎡、66万㎡、108万㎡の樹林地を抱えますが、新座市の平林寺寺林を除いてほとんどが段丘崖斜面林や小規模社寺林などの狭小な林です。その中で本校の5万㎡強の面積をもつ雑木林は生物の生息環境として大変重要なのです。

『周辺開発とタヌキの出没』

もともと志木高にはタヌキが出没します。しかし、最近本校に近い「ハケの山」雑木林周辺で大規模マンションの建設がはじまったことでタヌキの出没傾向が変わりました。開発により生息環境を奪われた結果、深夜街中を走り回るタヌキの姿が目撃されるようになり、その一部が志木高内に入り込んで第二の住処としたのです。本校の他にはわずかな斜面林しか残らない周辺環境を考えるとここ以外に彼らの生息場所はなさそうです。

学校生活



受験を経て入学する友だち、塾内から進学する友だち、一人一人の背負ってきた経験は異なりますが、その違いを認め合うことから、志木高の生活が始まります。自由な校風の中で、それぞれが思い描いた学校生活を現実のものとしていてください。基本的なマナーを心得、他人に対する思いやりの気持ちさえあれば、君たちを束縛するものは何ともありません。



校則・服装

校則は最小限のものしかありません。「独立自尊」を校是とする、塾生としての自覚を持つことを期待しているからです。公式行事などの服装としては学生服（冬は黒の詰襟、夏は白ワイシャツにグレーのズボン）が定められていますが、普段は塾生としての品位を保った清潔な服装であれば自由です。

食堂・売店

同時に150人程度が利用できる食堂には、食べ盛りの生徒たちのお腹を満たすメニューが豊富に、また手頃な値段で用意されています。毎週金曜日に用意されるイベントメニューは特に人気で、午前中には完売します。食堂内にある売店ではパンなどの軽食をはじめ、筆記用具や白衣、ワイシャツに至るまで、学校生活に必要なものがほとんど手に入ります。

食堂に毎日通って行けば違うクラス、学年であっても志木高生の顔はだいたい覚えます。これが大学での人脈作りに大いに役立っているようです。規模が小さな志木高ならではの利点といえます。

奨学金

学業・人物ともに優れ、経済的事情により学業の継続が困難な生徒に対して「小泉信三記念奨学金」「2000年記念教育基金奨学金」「慶應志木会奨学金」が設けられています。このほかに、日本学生支援機構、地方公共団体・民間の奨学金を随時募集します。

生徒会

生徒自身の自治組織です。目的は生徒会規約に「独立自尊の精神を基盤に、会員相互の協力と責任ある自治活動により、学園生活の充実、向上を図るものである」とあります。命令や強制によらない本校の教育の基本的組織です。

国際交流

本校独自の国際交流提携校として、オーストラリアのクイーンズランド州にある Toowoomba Grammar School、台湾の台北市にある 薇閣雙語高級中學 (Taipei Wego Private Bilingual Senior High School)、フィンランドのトゥルク市にある Luostarivuoren Lyseon Lukio (ルオスタリヴオリ・ルシオン高校)の3校があり、夏季短期留学を実施しています。その他、ハワイ(ホノルル)の Punahou School が主催するプログラム、SGL(Student Global Leadership Institute)にも参加しています。また、「日韓高校生交流キャンプ」(日韓経済協会主催)のようなイベントに参加する生徒もいます。長期留学としては、生徒が外部団体(YFU・AFSなど)を通して留学を希望し、本校がそれを許可する場合があります。



名称	対象者	募集期間	備考
2000年記念教育基金奨学金(前期)	全学年	前年度1月	給付:奨学金額は、半期授業料全額を基準に必要度に応じて決定 高校3年生は大学進学に伴う入学のみ
2000年記念教育基金奨学金(後期)	全学年	6月	給付:奨学金額は、半期授業料全額を基準に必要度に応じて決定
小泉信三記念奨学金	第2学年以上 (塾内進学者は全学年)	4月	給付:奨学金額は、年間授業料の全額または半額に相当する額
慶應志木会奨学金	全学年	9月	給付:奨学金額は、半期授業料に相当する額

健康管理・カウンセリング

保健室では慶應義塾大学病院の医師が校医として勤務しており、保健師と連携して救急の怪我や病気への対応、健康相談・保健管理などに取り組んでいます。また、大学の保健管理センターと連携して、毎年4月に健康診断を実施します。一方、ストレスケアは現代社会の切実な問題ですが、本校では保健室に隣接する場所にカウンセリングルームを設けています。自分で問題を抱え込まず、相談し解決策を考えてゆくために、カウンセラーと精神神経科の専門医が、生徒・保護者の相談に応じています。

年間行事



勉強だけではなく、学校行事を通じて培われる実践力、
そして忍耐力が志木高生の強みです。
仲間と共にどこまでも熱く、一つ一つの行事を成功させていきます。

04 APRIL	●入学式・新入生歓迎会 ●定期健康診断 ●開校記念日(4/23)
05 MAY	●運動会 ●早慶戦(東京六大学野球観戦) ●第1学年研修旅行
06 JUNE	●第1回定期試験 ●医学部見学会
07 JULY	●クラスマッチ ●志木演説会 ●大学学部説明会
08 AUGUST	●志木の森ツアー ●大学模擬講義・模擬ゼミ
09 SEPTEMBER	●第2学年研修旅行 ●第1学年普通救命講習 ●第3学年見学旅行 ●薬学部見学会
10 OCTOBER	●理工学部見学会 ●収穫祭
11 NOVEMBER	●第2回定期試験 ●クラスマッチ
12 DECEMBER	●マラソン大会 ●志木演説会
01 JANUARY	●福澤先生誕生記念日(1/10) ●第3学年第3回定期試験
02 FEBRUARY	●第1・2学年第3回定期試験
03 MARCH	●卒業式 ●志木の森ツアー



◎ クラスマッチ

7月と11月の定期試験期間後に行われる親睦行事です。サッカー、ソフトボール、バスケットボール、卓球などでクラスの代表チームが対抗戦を行います。

◎ 研修・見学旅行

第1学年は5月中旬に三浦半島で「総合的な探究の時間」として2泊3日の研修旅行を行い、第2学年は10月上旬に信越方面で理科の実習を中心とした3泊4日の研修旅行を行います(p.013参照)。第3学年は9月下旬に中国・四国方面で3泊4日の見学旅行を行います。

◎ 早慶戦

東京六大学野球リーグ戦の中でも長い伝統に輝く一戦です。毎年春と秋に神宮球場で行なわれ、全塾を挙げて応援します。本校では、例年春の第1回戦に第1学年全員が参加します。応援合戦などを通じて、塾生としてのきずなを感じる絶好の機会です。

◎ 普通救命講習

毎年度第1学年を対象に行われます。専門の講師の方を招いて、心臓マッサージ法や人工呼吸法などの実践的な救命実技指導を受けながら、「いのち」の大切さを学びます。

◎ 志木演説会

福澤先生の始められた「三田演説会」にならない、生徒全員参加の学校行事として行われる講演会です。すでに127回を数えます(2020年7月現在)。卒業生をはじめ慶應義塾の内外から各界で活躍する方々を講師としてお招きしています。また講演だけでなく、生徒の合唱、発表、演説の場でもあります。現在は7月、12月の二回行われています。義塾の演説の伝統を受け継ぐ学校行事です。



◎ 運動会

春または秋に行われる体育行事です。トラック競技や綱引き、台風の日などのフィールド競技、アトラクションのクラス対抗仮装行列など、意匠を凝らしたクラス旗のはためく秋空のもとで繰り広げられます。締めくくりに騎馬戦は、これぞ男子校という迫力で圧倒されます。

◎ マラソン大会

全校生徒が参加し、校外で行われる体育行事です。生徒だけでなく、教職員の飛び入り参加もあり、初冬の澄んだ空気を胸いっぱい吸って、10キロのコースを走り抜けます。

◎ 志木の森

本校OBによって慶應義塾に寄贈された三重県多気郡大台町・度会郡大紀町にある森です。春・夏の年2回、有志による「志木の森ツアー」を行っています。森林の維持活動、植生・地質の調査のほか、カヌー、熊野古道散策、パーベキュー、キャンプファイヤーなど、企画盛りだくさんのツアーです。

◎ 教室から出る

—フィールドワークへの誘い—

志木高の広い敷地と武蔵野の自然の中では学校全体が教室のようなものです。動植物の生態を観察する、地形を測定する、俳句を詠む、稲を育てる、鉛筆でデッサンをするなど、教室内に留まらない校内の環境を活かした授業が日常的に行われます。さらに校外に出て、さまざまな施設への訪問、博物館や美術館の見学、歌舞伎や演劇の鑑賞、総合的な探究の時間の授業では各国の文化に触れるためにレストランを訪れるなどといった広がりある授業が展開され、標本やインターネットを見ただけでは伝わらないリアリティーを生徒たちは普段の授業の中から体感しています。生徒の活動も器楽部が福祉施設でボランティア演奏会を行ったり、生徒会が志木駅前募金活動を行うなど広がりを見せています。



◎ 収穫祭

10月下旬(または11月上旬)に開催される学園祭です。「収穫祭」の名は、本校の前身である獣医畜産専門学校・農業高校の伝統を受け継いでいます。生徒によって収穫祭実行委員会が組織され、企画から運営に至るすべてに携わります。クラス・クラブや有志による企画・模擬店や研究発表、招待試合、前・中夜祭などが行われた後、最後を飾るのは後夜祭。2日間は瞬間に過ぎ去りますが、そこで生まれた絆は一生モノです。



有吉 諒真君
(第72回収穫祭実行委員長
70期、総合政策学部1年)

志木高は生徒に自主性を求める高校です。収穫祭という学校行事もゼロから自分たちで試行錯誤しながら作り上げていきます。企画・予算の立案、広報活動、資材の確保・搬入といった裏方の仕事も実行委員が中心となって行います。製作の過程で何度も驚かされたのは、志木高生の集中力とエネルギー、個性的で秀逸なセンスです。本番が近づくにつれ、仲間内で衝突することもありました。私自身、後夜祭前日のリハーサルでは、絶対に成功させなくてはならないという焦りと不安から他の幹部に厳しくあたり、言い合いになったことをよく憶えています。動画編集のパートでは、クリエイターと編集者の生徒間で喧嘩になりかけたこともありました。ただ、それらは誰一人として妥協を許さない姿勢の表れであり、よく考えより良いものを作ろうとしているからに他なりません。このように目的を同じくした仲間と一歩一歩進んでいった日々は、いま振り返れば大切なものだったと思います。



クラブ活動



志木高の広大なグラウンドと豊かな自然は、若いエネルギーを発散させるに余りあるほどです。この環境を最大限に生かして毎日を精一杯生きることが、強い体と精神力を養ってくれるはず。二度と戻らない貴重な時だからこそ、最高の環境の中で過ごしてほしいのです。

文化部

- 英語部 (ESS・軽音パート)
- 美術部
- 生物部
- 電子工学研究会
- 天文部
- 鉄道研究会
- 新聞部
- ワグネル・ソサイエティー
男声合唱団
- マンドリンクラブ
- 器楽部 (吹奏楽)
- 囲碁将棋部

運動部

- 硬式野球部
- バスケットボール部
- 競走部 (陸上)
- 弓術部
- 卓球部
- ゴルフ部
- 庭球部 (硬式テニス)
- 剣道部
- 端艇部 (ボート)
- スキー部
- ラグビー部
- ソフトテニス部
- バレーボール部
- 水泳部
- ホッケー部
- 軟式野球部
- サッカー部
- 空手部

文化部 鉄道研究会 鳥羽 海正君 (3年)

私たち鉄道研究会は、他の多くの部活とは異なり、個人の目標は十人十色です。徹底的に路線を乗りつぶす者、美しい写真を撮ろうと奔走する者、自動放送の収録を試みる者といった所謂「鉄オタ」だけでなく、工作が好きなお客など「非鉄」の部員もあり、日々の過ごし方は大きく異なります。

しかし、年に一度の「鉄道模型コンテスト」に向けては、部員全員が協力して活動しています。各自が日常で培った多彩な才能を結集させ、「魅せる」レイアウトの制作を信条としています。リアリティには特に注力しており、現地での測量を基にした設計をすることで、ありのままの街の姿を150分の1のスケールにしています。

昨年度は、中浦和駅周辺の立体交差をレイアウト上で再現し、理事長特別賞を頂くことができました。受賞後、OB制作の精密なHOゲージの見学機会を頂いたことは、更に良い作品を作ろうという意欲がわきました。

志木高の鉄研は、他校よりも活動時間は短いかもかもしれませんが、青春を模型制作に捧げる濃密な時間や、全員で一つの目標に向かう経験は、きっと人生の糧となると思います。

皆さんが、入学後に自分の興味関心を深め、有意義な高校生活を送れることを祈っています。



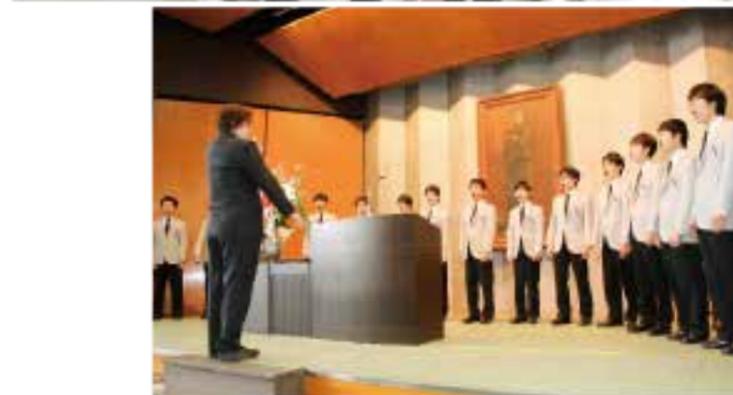
運動部 水泳部 足立 開君 (3年)

志木高水泳部は、選手経験豊富な部長の先生、大学体育會の学生コーチ、OBの方々のご指導、ご協力のもと活動しています。また、一貫校同士のつながりも強く、合同合宿や塾内対抗戦、早慶戦などでお互い高め合っています。その甲斐もあり、リレーにおいては4年連続関東大会出場を果たしています。

部員は初心者から全国大会出場選手まで、そのレベルは様々です。一人ひとりの目標は異なりますが、互いに研鑽し合うことで、互いの成長を喜ぶことができます。

水泳は一見個人競技のようですが、団体競技だと私は考えます。もちろん泳ぐ時は一人ですが、それまでの過程は一緒に練習した仲間がいたからこそ乗り越えられるものだと思うからです。試合の際にはその選手の目指す目標の達成に向けて部員全員で全力で応援します。このように仲間同士が一体となって個々の目標に取り組む活動は、多くのやりがいを感じられるものです。

志木高生活を振り返ると、仲間と全力で取り組んだ時間が一番の宝物です。皆さんも一生懸命になれるものを見つけ、志木高生活をより良いものにしてください。



志木高の歩み



本校体育館の舞台中央の壁面に、慶應義塾の創始者福澤諭吉(1835-1901)の演説姿を写したと伝えられる肖像画が掲げられています。和服の着流しで、悠然と腕組みをして立つ油彩の正面全身像です。その姿に、諭吉の人柄と生涯のすべてが語られていると思います。先生は本を読むことよりも、字を書くことよりも、人に向かって話すことが大切であると考えました。先生は国の役人を尊び、民間の人々を見下すような官尊民卑の気風を嫌い、自らも大臣や役人にならず、民間の学者、教育家として生涯を貫きました。志木高生は、いつもそんな先生に見まもられています。

『学問のすゝめ』十二編 — 演説の法を勧むるの説

演説をすれば味わいが生まれます。文章では伝わらないことも口で話せば人の心を動かします。どのように自分の考えを人に発表するかは大切です。

学問は読書だけがすべてではありません。活用できない学問は無学と同じです。昔、朱子学を学んだ学生がずっと江戸で勉強して、数年間でノートを数百冊も作りました。もうこれでよしと思ってノートを船で送ったら、船は沈没してしまいました。学生は故郷には帰ったものの、学問は海に流れて身に付いたものは何一つもない、江戸で勉強する前の無学な自分とまったく変わってなかったという話があります。

今、東京に出て西洋の学問をする者も同じで、テキストを取り上げて田舎に帰したら、「僕の学問は東京に置いてきてしまった」と言い訳したという笑い話もあります。

だから学問の目的は読書だけではなく、知識を活用するという精神の働きにあります。観察・探求だけでなく、もちろん、読書も作文も討論も発表も必要で、これらをすべてこなしてはじめて学問を勉強する人というのです。観察・探求・読書は自分から知識を広げる方法、討論は知識を交換する方法、作文・発表は知識を広める方法です。そしてこれらの方法の中で自分一人で行えるものもあるけれど、討論と発表とは必ず相手が必要になります。演説会はだから必要なのですよ。(大意)



《慶應義塾一口メモ》

1 「塾生」・「塾員」

慶應義塾では学生・生徒のことを「塾生」、卒業生のことを「塾員」とよぶならわしがあります。また、塾生・塾員と教職員を合わせて「社中」とよび、福澤先生の時代から強い結束を保ってきました。なお慶應義塾には、公式文書等の敬称として塾生・塾員・教職員ともに「君」を用いるならわしもあります。「先生」は創立者たる福澤諭吉ただ一人であるというわけですが、これも義塾の成り立ちと伝統とをよく伝える事例といえましょう。

2 「気品の泉源」・「智徳の模範」

「慶應義塾の目的」に登場する言葉で、塾生・塾員が目指すべき理想像です。このうち「気品」について福澤先生は、それがcharacterであり、「浩然の気」(『孟子』)であり、かつ高尚なものであると説明されています。しかし、これはなにも特別な人しか身につけられないものではありません。むしろ、われわれ一人一人が、日常生活のうえでの行動の規範として身につけることが期待されているものです。

3 「独立自尊」

「独立自尊」とは、むやみに権力に従うのではなく、自ら考え、自分の責任において物事を判断し行動すること、またその際に、自分をおとしめず、同時に他の人々のことも尊重し、自分と同じように大切にすることを意味する言葉で、慶應義塾を支えてきた根本精神です。福澤先生が弟子たちとともに作成された『修身要領』(1901年)には、「心身の独立を全うし、自らその身を尊重して、人たるの品位を辱めざるもの、これを独立自尊の人と言う」とあります。

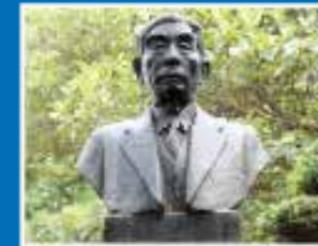
4 「自我作古」

「われよりいにしえをなす」と訓じます。もとは中国の『宋史』にみられる言葉ですが、古い慣習にとらわれず、自らが先導者として新しい分野を開拓することを意味し、1868(慶應4・明治元)年起草の『慶應義塾之記』以来、慶應義塾のあり方と気概を示す言葉として今日も用いられています。

5 「練習ハ不可能ヲ可能ニス」

戦前から戦後にかけて長く慶應義塾の塾長を務めた小泉信三元塾長(1888-1966)の言葉で、現在でも慶應義塾の体育会各部の motto となっています。

参考：『慶應義塾史事典』(2008年)、『慶應義塾豆百科』(1996年)、『福澤諭吉事典』(2010年)



志木高沿革

日本の電力開発に最も大きな功績を残した松永安左エ門が、当時理事長として苦境にあった東邦電力の研究所を、自身が生涯の師と仰ぐ福澤諭吉の慶應義塾に寄贈するという英断によって、本校は産声を上げます。慶應義塾の一貫教育校の中にあって、他校にはない独自の伝統が、本校を特徴づけています。

1858(安政5)年	福澤諭吉・蘭学塾を創始	1974(昭和49)年度	旧去来舎竣工
1868(慶應4)年	慶應義塾と命名	1975(昭和50)年度	1年研修旅行スタート(2年は翌年から)
1947(昭和22)年度	松永安左エ門寄贈の東邦産業研究所敷地・施設、慶應義塾への受け入れ決定	1976(昭和51)年度	有朋舎(部室棟)竣工
	慶應義塾獣医畜産専門学校、志木へ移転	1979(昭和54)年度	「牧童像」除幕式
	農場納入	1984(昭和59)年度	柔剣道場竣工
1948(昭和23)年度	慶應義塾農業高等学校設置・開校式	1985(昭和60)年度	陽光舎(第2部室棟)竣工
	第1回収穫祭	1987(昭和62)年度	3年見学旅行スタート
1957(昭和32)年度	農業高等学校を改組し慶應義塾志木高等学校発足	1988(昭和63)年度	慶應志木会(OB会)設立
	(※「農芸」を含むカリキュラム)	1991(平成3)年度	語学課外講座(当初19言語)開講
	第1回志木演説会(奥井復太郎塾長「慶應義塾について」)	1992(平成4)年度	コンピュータ教室設置
	学部推薦入学制度(文・経・法・商)	1993(平成5)年度	『櫻』(生徒論文・作品集)創刊
1958(昭和33)年度	慶應義塾創立100周年	1995(平成7)年度	『ことばと文化』(「語学課外講座」論文集)創刊
	生徒会発足、第1回総会	1996(平成8)年度	慶應志木の森、植樹祭
1959(昭和34)年度	第1回運動会		「志木の森ツアー」スタート
1964(昭和39)年度	第1回マラソン大会(多摩湖コース)	1998(平成10)年度	開設50周年記念式典
1968(昭和43)年度	新校舎(現在の校舎)竣工		『志木高五十年』刊行
1969(昭和44)年度	3年生「自由選択科目」スタート	2001(平成13)年度	メディア棟・新去来舎竣工
	福澤先生坐像安置式 福澤先生肖像画掲額	2003(平成15)年度	実習農園の復活
1972(昭和47)年度	制服自由化(夏服、翌年冬服も)	2008(平成20)年度	慶應義塾創立150周年
		2010(平成22)年度	憩いの広場設置

※農芸：農業高校時代の成果を生かし、土に親しみながら実学の精神を養うため、週に2~3時間、全生徒が果樹・園芸、農場関係の作業に従事した科目です。1964年に廃止されますが、現在でも収穫祭や有志による実習農場など、農業高校時代のなごりがみられます。

進路状況

慶應義塾大学への推薦

本校の卒業生は、学校長の推薦により、慶應義塾大学のいずれかの学部に進学することが認められます。学部推薦のための情報は在学中機会あることに提供され、担任との面接などを通して理解を深めながら各自が志望学部を決定していきます。直接大学の先生から話を聞く機会として、学部説明会や学部見学会、模擬講義なども設けられています。推薦する学部の決定に際しては、生徒一人一人の希望を尊重することはいうまでもありませんが、すべての生徒の希望に沿うことはできませんので、在学中の成績を全体的に評価して最終決定を行います。なお、本校は慶應義塾の一貫教育校ですから、他大学を受験する際には慶應義塾大学への推薦を辞退しなければなりません。



慶應義塾大学の学部・学科

●詳しくは慶應義塾大学ホームページをご覧ください <http://www.keio.ac.jp>



慶應義塾大学大学院

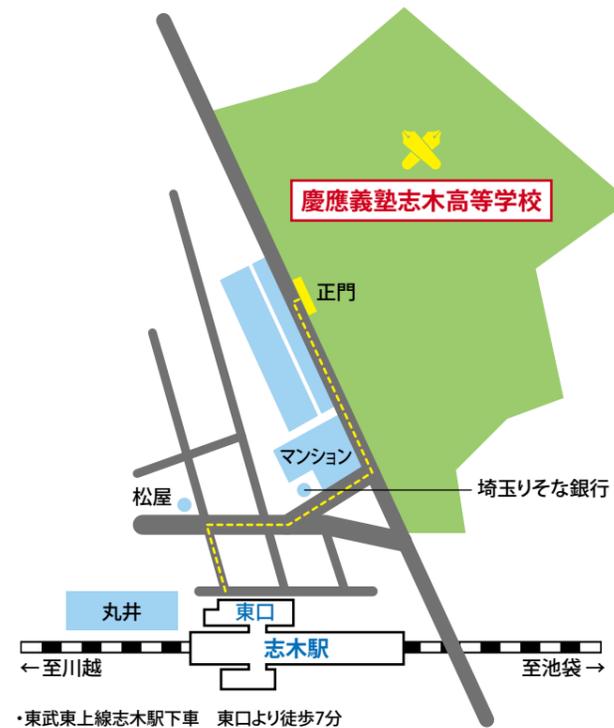
「学理及びその応用を教授研究し、学術の深奥を究めて文化の発展に寄与すること」を目的とし、社会貢献を明確にうたうのが慶應義塾の大学院です。研究科は14あり、いわゆる「飛び級」による入学を認めている研究科や、ジョイントディグリー制度を導入している研究科もあります。本校の卒業生も数多く進学し、修了後は研究者や高度な専門性を備えた職業人として第一線で活躍しています。意欲さえあれば、道は大きく開かれています。

- 文学研究科 ●経済学研究科 ●法学研究科 ●社会学研究科 ●商学研究科 ●医学研究科 ●理工学研究科
- 政策・メディア研究科 ●健康マネジメント研究科 ●薬学研究科 ●経営管理研究科
- システムデザイン・マネジメント研究科 ●メディアデザイン研究科 ●法務研究科(法科大学院)

過去の進学状況

	文	経済	法	商	医	理工	総合政策	環境情報	看護医療	薬	その他	卒業生数
2019年度	25	80	74	22	7	33	3	9	0	1	2	256
2018年度	18	73	74	30	7	37	1	0	0	2	1	243
2017年度	16	80	74	61	8	27	1	2	0	3	3	275
2016年度	14	80	74	59	8	34	2	4	0	2	2	279

アクセスマップ



池袋・浦和から校門までどちらも30分とかかりません。
最寄りの東武東上線志木駅から徒歩7分と交通至便の場所にあります。

《参考》本校生徒の居住地域(2020年度実績)

- 埼玉県中央部..... 185名
- 埼玉県東部..... 29名
- 埼玉県西部..... 106名
- 埼玉県北部..... 7名
- 東京都23区..... 261名
- 東京都市部..... 48名
- 神奈川県..... 41名
- 千葉県..... 64名
- 栃木県..... 8名
- 群馬県..... 2名
- 茨城県..... 3名

志木駅までの所要時間(目安)





<http://www.shiki.keio.ac.jp>



慶應義塾志木高等学校

〒353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1
TEL 048-471-1361(代表) FAX 048-471-1974